

琉球国王尚家関係資料「御絵図(みえず)」 の絣基本単位による分析

山田 葉子

Analysis of “Miezu”, Ryukyu King Sho Family Related Documents, by the Basic Units of Kasuri Fabric

Yoko YAMADA

In the Ryukyu dynastic era, paintings called Miezu were used as the design plans of the fabrics produced in Kumejima, Miyako, and Yaeyama, ordered from Shuri, where the royal castle located. These paintings, in modern era, are important resource to study on the change of the Ryukyu fabric designs throughout the dynasty. "Miezu-cho" (King Sho Family Related Document No.0004-0010) in the Naha City Museum of History, are the seven booklet collection of the Miezu. The collection consists of 366 Miezu paintings and 2 pieces of cloths. This paper indicates the differences among the Miezu paintings in the “Miezu-cho” in the Naha City Museum of History, the Okinawa Prefectural Museum, and other various institutions, by analyzing the Miezu on the “Miezu-cho” by its basic kasuri units.

1. はじめに

「御絵図」とは、琉球王国時代に首里から久米島・宮古・八重山に向けて織物を発注する際に、図案を指示するため描かれた絵図面とされ、王国時代の琉球の織物図案とその変遷を研究する上で重要な資料である。本稿で取り上げる那覇市歴史博物館所蔵琉球国王尚家関係資料「御絵図帳」(尚家文書 No.0004～0010)は、冊子7冊に御絵図366枚及び裂地2点が張り付けられた資料群である。本稿ではこの那覇市歴史博物館所蔵資料(尚家文書)の御絵図を、絣基本単位を軸に

して分析を行い、沖縄県立博物館・美術館他に所蔵する御絵図と比較することで相違点について考察する。

2. 資料の来歴

本稿で取り上げる御絵図は、現在那覇市歴史博物館（以下那覇市）が所蔵する尚家文書資料に含まれる資料である。御絵図は、王国時代末期までは納殿、大美御殿などの王府の担当部署内で保管され、廃藩置県に伴って王府関係文書とともに尚家（中城御殿）へ移管されたものと考えられる。1939年に日本民芸協会沖縄調査団の一員として来沖し御絵図の調査を行なった田中俊雄によると、御絵図が貼り付けられた御絵図帳は全部で10冊あり、内訳は尚家が所蔵する御絵図帳が8冊、尚家別本が1冊、今帰仁朝明氏所蔵本が1冊であり、御絵図の総点数は689枚だったという。尚家（中城御殿）の御絵図帳は、その後時期は不明だが東京尚家邸へと移送され、1995年から1996年にかけて1300余点の尚家旧蔵の文書資料の一部として那覇市に寄贈された。文書資料はその重要性が認められ、歴史資料として一括して2006年に国宝に指定された。資料は経年劣化が進んでいたが、2016年度に全面的に修理を行い、精密な調査が可能となった。

3. 現存する御絵図と先行研究

前述の田中によると、かつて宮古島にも御絵図が保管されていたが明治末に焼失したとあり、また田中が沖縄滞在中に那覇市内の古着屋で御絵図を発見したことが滞在記に記されていることから、何らかの理由で市場に流れたものを含めると昭和初期には少なくとも700枚近い御絵図が存在していたことになる。

現在御絵図は那覇市の366枚のほか、沖縄県立博物館・美術館、日本民藝館、石垣市立八重山博物館、東京国立博物館ほかに所蔵されている。この内、沖縄県立博物館・美術館、日本民藝館、八重山博物館に収蔵の御絵図資料198枚については「琉球王朝時代における「御絵図」そのⅠ 資料編 写真」（沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要第4号 1991）【本稿では以下文献1とする】及び「琉球王朝時代における「御絵図」 併基本単位による分析」（沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要第5号 1992）【本稿では以下文献2とする】、「染織資料Ⅳ - 御絵図 -」（沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要第3号 2010）で報告され、併基本単位

による詳細な分析報告がなされている。本稿では、すでに文献2で分析されている御絵図資料と那覇市所蔵の御絵図資料を比較するため、文献2で使用されたと同研究方法と同一の分析を行った。

4. 研究方法

那覇市所蔵の御絵図資料 366 枚（1 枚に絵図が 2 点描かれた資料があるため図の点数は 367 点）中、緋柄が配置された資料 339 点を分析の対象とした。研究方法は以下の通りである。

- 1、資料写真より緋柄 128 点を抽出し基本単位とした。
- 2、資料の寸法、地色、使用されている緋基本単位、玉数、彩色面、針穴の有無等をデータベース化した。

本稿で使用している緋基本単位の図（経緋 01～22、緯緋 01～24、緯ずらし緋 01～39、経緯緋 01～35）は文献2に使用されている図を引用した。なお文献2では緯緋をずらして作られた緋に対し「手結い緋」という呼称を使用しているが、本稿では「緯ずらし緋」を使用している。

5. 結果と考察

5-1 基本単位の技法的分類と出現数

基本単位を技法によって経緋・緯緋・緯ずらし緋・経緯緋の4種類に分類し、各々の出現数を集計した。基本単位と各出現数を本稿末尾の図1～4に示す。出現数は文献2との比較のため、所蔵先の頭文字をとって「沖・日・八」、那覇市資料の出現数を「那覇」とし、それに続けて出現数を表記している。基本単位別の出現数をみると、文献2で出現した基本単位の中には那覇市資料には出現しないものがあり、その一方で、那覇市資料にしか出現しない基本単位があるということが判明した。また、文献2で多数出現する基本単位の多くが、那覇市資料でも出現数が多い傾向にある事もわかった。

基本単位の出現数を集計した結果が表1である。比較のため、文献2の分析結果をカッコ内に示した。

表1 技法上の分類と基本単位数、出現数（小数点以下2桁は四捨五入）

	基本単位数	出現数	平均出現数
経緋	25 (22)	233 (147)	9.3 (6.7)
緯緋	28 (24)	290 (133)	10.4 (5.5)
緯ずらし緋	35 (39)	184 (140)	5.4 (3.6)
経緯緋	41 (35)	341 (248)	8.4 (7.1)
合計	129 (120)	1048 (668)	8.2 (5.6)

両者を比較すると、基本単位数は大きな差はないが、那覇市資料の資料点数が文献2より多いため出現数に大きな差が生じた。文献2の調査結果では、出現数の点で経緋・緯緋・手結い緋に大きな差はなかったが、那覇市資料では緯ずらし緋の出現数が少ないという結果になった。経緯緋が単位数も出現数も多いという点は文献2の分析結果と同様である。

5-2 出現数の多い基本単位

調査対象資料339点中、基本単位はのべ1048回出現した。基本単位の中で最も出現数が多かったものは89回であった。

出現回数の多い基本単位上位10位までは以下の通りである。カッコ内は出現数を表す。

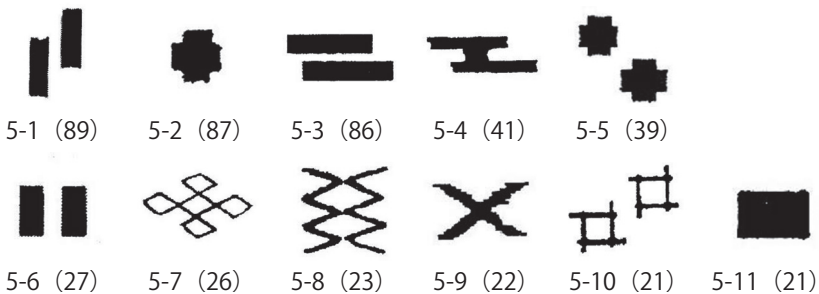


図5 出現数の多い緋基本単位

文献2では出現数の多い基本単位上位12点中、経緯緋が他の緋と比較して出現数が多いという結果になったが、那覇市資料では出現数が経緋2点、緯緋3点、緯ずらし緋3点、経緯緋3点となり、文献2とは異なる結果となった。また、5-1、5-2、5-3、5-5、5-7は文献2と共通して出現数が多いが、それ以外は異なる

る基本単位が多く出現していることがわかった。

5-3 基本単位の出現数分布

表2は基本単位の出現数分布を技法別に表したものである。

表2 出現数分布と技法別基本単位の関係

	経緋	緯緋	緯ずらし緋	経緯緋	合計
80以上	1	1	0	1	3
70～79	0	0	0	0	0
60～69	0	0	0	0	0
50～59	0	0	0	0	0
40～49	0	1	0	0	1
30～39	0	0	0	1	1
20～29	1	1	3	2	7
10～19	4	7	3	4	18
5～9	5	2	4	10	21
3～4	3	4	8	7	22
1～2	11	12	17	16	56
合計	25	28	35	41	129

その結果、出現数の最も多い基本単位の上位3位は経緋、緯緋、経緯緋に各1点ずつあり、80回以上と他の基本単位よりもはるかに高い出現数を示し、文献2の結果と大きく異なった。しかしこの点を除くと、それ以下の基本単位は多くが出現数10回以下であり、半数近くが出現数2回以下である点や、緯ずらし緋が他の基本単位と比較して出現数が少ない点などで、文献2の出現分布と同様の傾向を示した。

5-4 同一基本単位の組み合わせ

文献2での報告と同じく、那覇市資料にも、使用された基本単位・基本単位の大きさ・配置・配色が全く同一の資料と、使用された基本単位同じだが配色や基本単位の大きさが異なる資料がある。

その中から、基本単位が同じ組み合わせのものを抽出した。その結果、使用されている基本単位が同じ資料は50種類、267点となった。最も出現数が多かったのは、緯緋1種類に格子を組み合わせた図6-1の組み合わせで、37点あり、資料のおよそ10%を占める。次に多かったのは図6-2と図6-3の組み合わせが

18 点、図 6-4 の組み合わせが 17 点あった。

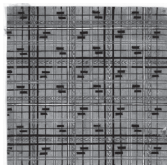


図 6-1 (37)

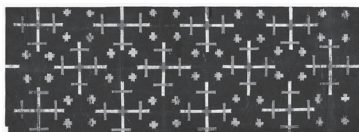


図 6-2 (18)



図 6-3 (18)



図 6-4 (17)

文献 2 の分析では、図 6-4 と同じ組み合わせが 3 番目に多く出現したが、6-1、6-2、6-3 は上位には入っていない。

5-5 資料の大きさによる分類

各館の資料を大きさによってグラフ化したのが図 7 である。縦軸・横軸は資料の縦・横のサイズ（単位：cm）を示す。那覇市資料は、布の織幅（着尺幅）に匹敵する横約 38～40cm の資料（以下、着尺幅資料と呼ぶ）と、縦横 15cm 以下の小型の資料が多いことがわかる。また、他館の資料に比べ、着尺幅資料の縦の長さが約 37cm から 5cm まで幅広く分布している点も特徴的である。また、着尺幅の約半分当たる横 20cm 前後の資料も多く見られる。

さらに資料を横の長さによって着尺幅（40cm 前後）と小片に大きく分類した。その結果を表 3 に示し、比較のため文献 2 より沖縄県立博物館・美術館、日本民藝館、八重山博物館所蔵資料の大きさによる分類を引用した。その結果、那覇市の資料は着尺幅よりも小片の資料が多く、比率はおおよそ着尺幅 45% に対し小片 55% であることがわかった。文献 2 の沖縄県立博物館・美術館、日本民藝館、八重山博物館では、所蔵先によって割合が異なるが、合計するとおおよそ着尺

幅 60% 小片 40% となる。参考データとして、これに那覇市の資料数を統合して 4 館の資料数を合計した結果、着尺幅と小片の数は同数となった。

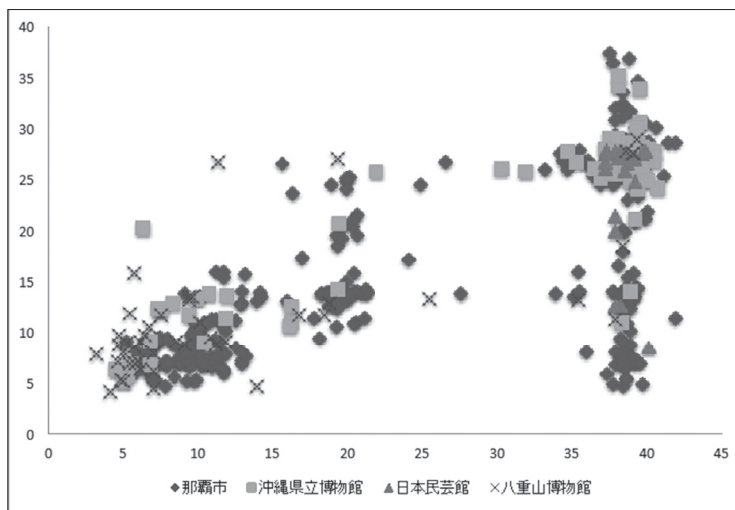


図7 資料のサイズの分布図

表3 資料の大きさと所蔵先

	着尺幅	小片	合計
那覇市歴史博物館	155	184	339
沖縄県立博物館・美術館	75	48	123
日本民藝館	29	0	29
八重山博物館	6	33	39
合計	110	81	合計

(参考データ)

	着尺幅	小片	合計
上記4館合計	265	265	530

5-6 資料の大きさと地色

資料の大きさと地色の関係について分類した。文献2では黄地・白地・黒地・浅地・その他という4色及びそれ以外という分類で分析したが、那覇市資料は黄・白・黒・浅地(水色)・茶・灰・橙・緑の8色に分類した。その結果が表4であ

る。比較のため、文献2の分析結果をカッコ内に示した。那覇市資料は着尺幅の資料は黒地が、小片の資料は茶色地が最も多いという結果になり、文献1の結果とは異なる。文献2では着尺幅は黄色地が最も多かったが、那覇市資料では黒地の次に多いという結果になった。同じく文献2では小片は白地が最も多かったが、那覇市資料では上位を占める茶色地、黒地に比べるとかなり少ないという結果になった。着尺幅・小片の合計数でみると、黒地が最も多く、以下茶色地、黄色地と続き、文献2の結果と大きく異なる。

表4 資料の大きさと地色の関係

	着尺幅	小片	合計
黄色地	43 (46)	17 (5)	60 (51)
白地	24 (34)	19 (49)	43 (83)
黒地	50 (13)	52 (10)	102 (23)
浅地 (水色地)	3 (16)	17 (1)	20 (17)
茶	25	54	79
灰	2	11	13
橙	6	10	16
緑	2	4	6
合計	155	184	114

5-7 資料の大きさと使用された基本単位

那覇市資料の大きさと基本単位の出現数を技法別に分析した結果が表5である。経緋、緯ずらし緋、経緯緋は着尺幅資料に出現数が多く、緯緋は小片資料に出現数が多いことが判明した。

表5 資料の大きさと使用された基本単位

那覇市	着尺幅	小片	合計
経緋	130	103	233
緯緋	128	162	290
緯ずらし緋	105	79	184
経緯緋	213	128	341
合計	576	472	1048
灰	2	11	13
橙	6	10	16
緑	2	4	6
合計	155	184	114

那覇市資料に出現数の多い基本単位上位6点を示したのが以下の図である。カッコ内は出現数を表す。

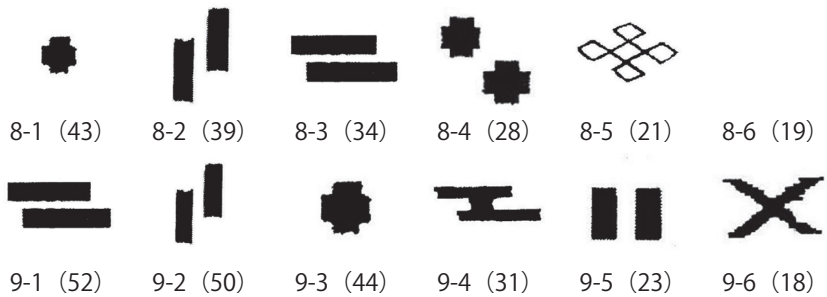


図8 小片資料に多く出現する基本単位

着尺幅と小片の資料について、それぞれ出現数が多い基本単位を集計した結果、上位3位は着尺幅・小片共に順位は異なるが同じ基本単位が出現した。これは5-2で基本単位の出現数を集計した際上位3点が他の基本単位と比較して高い出現数を示したと連動した結果とみられる。出現数上位3位の基本単位は、資料の大きさに限らず高い出現数を示すことが判明した。着尺幅資料に多く出現する基本単位と小片資料に多く出現する基本単位は、ともに図5で示した出現数の多い基本単位に含まれる結果となった。

5-8 着尺幅資料の玉数の分析

那覇市資料には、基本単位のサイズが小さく小柄で玉数の多い御絵図が多く、特に小片資料にその傾向が強く見られる。小片資料は、横幅を2倍から4倍すると着尺幅に近くなるサイズで描かれており、その前提で割り出すと4玉以上のものが多く見られる。玉数の多い資料は着尺幅にも出現している。小片資料は正確な幅と玉数が不明のため、着尺幅の資料で玉数を分析した。比較のため、文献1及び2から各館が所蔵する着尺幅資料で玉数が報告されているものを抽出し、集計した。その結果が表6である。

表6 玉数の分析（着尺資料）

	那覇市	沖縄県立博物館	日本民芸館	八重山博物館
30 以上	1	0	0	0
26 ～ 30	4	0	0	0
21 ～ 25	4	0	0	0
16 ～ 20	6	0	0	0
11 ～ 15	11	1	1	0
6 ～ 10	12	1	1	2
5	1	0	0	0
4	22	3	1	0
3	7	7	5	0
2	37	23	11	1
1	44	41	9	3
合計	149	76	28	6

その結果、文献 1 及び 2 の報告では着尺幅資料の大半が玉数 5 以下に収まるが、那覇市資料の着尺幅資料は玉数が 6 以上の資料が 25% を占め、着尺幅資料には玉数の少ない大柄の御絵図だけでなく、玉数の多い小柄な御絵図が含まれるという特徴があることがわかった。

5-9 資料の大きさと彩色面

那覇市資料の大きさと彩色面（両面または片面）の関係に着目し、分析した。御絵図は両面彩色されたものと片面にのみ彩色されたものがある。両面彩色されたものは、裏側に表側と同じ位置に反転した形で模様配置され、同じ色で彩色が為されて織り上がった織物と同様の状態になるように描かれている。両面彩色されている御絵図は、着尺幅資料だけでなく、小片資料にもある。資料の大きさと彩色面の出現数を分類したのが表 7 である。その結果、着尺幅・小片ともに、両面彩色の資料は片面彩色の資料よりも少なく、着尺幅では全体の 31%、小片では 20% しか両面彩色されていないことがわかった。平均すると、両面彩色の御絵図は 25% となった。

表7 資料の大きさと彩色面

	着尺幅	小片	合計
両面	48	37	85
片面	107	147	254
合計	155	184	339

5-10 資料の彩色面と針穴

一部の資料には、緋模様または縞模様にあわせて針穴が認められる。この針穴の目的は以下の3種類が考えられる。①両面彩色で表面と同じ位置に裏面に模様を描くためについた針穴。②既存の御絵図から模様を複写した際についた針穴。③別の用紙へ模様を転写する際についた針穴。

那覇市資料の彩色面と針穴の有無を分析した結果が表8である。両面彩色の資料の74%に針穴があり、対して片面彩色の資料は針穴があるのは28%だった。

表8 資料の彩色面と針穴

	針穴あり	針穴なし	合計
両面	63	22	85
片面	57	197	254
合計	120	219	339

5-11 小片資料の分類

文献2では小片資料に着目し、小片資料をさらに①断片資料②完成された小柄連続模様、③その他（試し書き等と思われるもの）に分類している。那覇市資料もこれに則って同じ分類をした結果、表9の結果となった。比較のため、文献2の分析結果の合計をカッコ内に示した。

表9 小片資料の分類

	断片資料	小柄連続模様	その他	合計
那覇市	115 (39)	68 (37)	1 (5)	184
合計	120	219	339	

文献2で報告された①と②の割合はほぼ同数となっていたが、那覇市資料は圧倒的に①の断片資料が②の小柄連続模様よりも多いという結果になった。

5-11 模様構成による名称分類

資料の模様構成によって緋織物名称別に分類をした。首里で伝統的に使用されている伝統的な緋織物名称を参考に、模様構成によって「ムルドウッチリ」「アヤヌナーカー」「ティジマ」「格子に緋」「その他」の5種類に分類した。模様構成の分類方法は、文献1および文献2を参考にした。その結果が表10である。比較のため、文献2の分析結果の合計をカッコ内に示した。那覇市資料は「その他」

に分類される資料数が多いため、さらに「その他」の内訳を下に示している。

表 10 模様構成による名称分類

	ムルドウッチリ	アヤヌナーカー	ティジマ	格子に緋	その他	合計
出現数	106 (114)	24 (14)	38 (6)	18 (11)	153 (60)	339

	経緯緋	緯緋	経縞に緯緋	経縞に緯緋	格子に経緋	合計
那覇市「その他」内訳	133	4	8	3	5	153

文献2の分類では、ムルドウッチリが60%となったが、那覇市資料のムルドウッチリは339点中106点と30%ほどで、最も多いのは「その他」に含まれる小柄の経緯緋133点で約40%となった。この結果からも、那覇市資料に小柄の御絵図が多いことがわかる。

6. まとめ

今回の調査を通して、緋の基本単位は文献2で報告されたものに加えて多数の展開があり、また玉数の少ない大柄の模様構成だけでなく、基本単位のサイズが小さく玉数の多い模様構成が多く存在し、御絵図のバリエーションが広いことが判明した。

様々な側面から分析をした結果、那覇市所蔵の御絵図は他館に保管されている御絵図と比較すると、使用されている緋基本単位やその出現数、使用されている地色、基本単位のサイズなどに差異があることがわかった。戦前尚家で保管されていた御絵図帳が9冊から現在では那覇市所蔵の7冊になり、今帰仁家で保管されていた御絵図帳は所在が不明であることを鑑みると、那覇市以外で保管されている御絵図は、元は尚家及び今帰仁家で保管されていた3冊分の御絵図が何らかの理由で散逸したものが含まれると推察される。元は一体だった御絵図に差異がある理由は不明だが、那覇市所蔵の御絵図帳には表紙に「大美御殿」等記入されているものがあることから、可能性の一つとして簿冊による御絵図の傾向の違いがあったことが考えられる。しかしこの点を考察するには、修理前の那覇市資料の御絵図の多くが台紙に固定されず挟み込まれた状態であり、固定されている御絵図も台紙側に残る貼り跡と一致しないケースが多いことから、オリジナルの状態から攪乱している可能性を考慮する必要がある。このため簿冊別の傾向を考察

するには、より慎重かつ詳細に御絵図を分析する必要がある。

今回は言及しなかったが、一部の御絵図と御絵図の貼り付けられた台紙には「上様御用」「納殿」等の発注元、「道光二拾年」等の年月、「久米嶋」「宮古嶋」等の発注先など様々な文字情報と押印が残されている。これらの情報を軸にして分類を進めることにより、用途の違いによる傾向の違いなどが浮かび上がってくる事も期待される。御絵図帳の文字情報及び押印の調査と分析は、簿冊別の傾向の調査と合わせて今後の研究課題としたい。

なお、本稿では主に緋基本単位の分析に言及したため、那覇市所蔵の御絵図資料の写真及び寸法等資料の個別データについては掲載していない。那覇市所蔵御絵図資料の資料編は別途平成30年度壺屋焼物博物館紀要に掲載する予定である。

〈参考文献〉

田中敏雄・田中玲子（1952）『沖縄織物裂地の研究』明治書房

鎌倉芳太郎（1982）「沖縄文化の遺宝」岩波書店

日本民藝協会（1939）「月刊民藝」

田中敏雄（1987）「沖縄の御絵図帳（遺稿）」『八重山の染織—日本民芸館蔵—』石垣市立八重山博物館

祝嶺恭子・ルバース吟子・與那嶺一子・崎浜秀昌・東恩納直子（1991）「琉球王朝時代における「御絵図」そのⅠ 資料編 写真」沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要第4号

祝嶺恭子・ルバース吟子・與那嶺一子・崎浜秀昌・柳悦州・東恩納直子（1992）「琉球王朝時代における「御絵図」緋基本単位による分析」沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要第5号

與那嶺一子（2010）「染織資料Ⅳ—御絵図—」沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要第3号

柳悦州（1993）『『御用布絵形之見本』と『御絵図』における緋の分類と比較』沖縄県立芸術大学附属研究所紀要「沖縄芸術の化学」第6号

図1 経綫基本単位


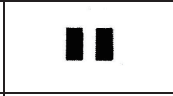



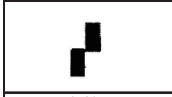

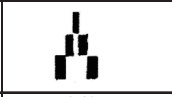


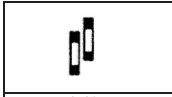

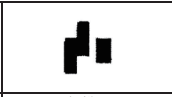

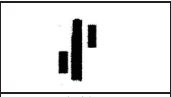




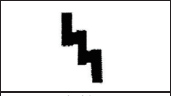




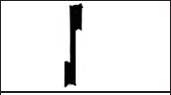



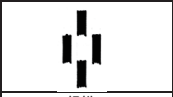


				
経綫01 沖・日・八 3 那覇 19	経綫02 沖・日・八 5 那覇 28	経綫03 沖・日・八 36 那覇 89	経綫04 沖・日・八 2 那覇 3	経綫05 沖・日・八 2 那覇 6
				
経綫06 沖・日・八 2 那覇 0	経綫07 沖・日・八 5 那覇 0	経綫08 沖・日・八 1 那覇 2	経綫09 沖・日・八 13 那覇 15	経綫10 沖・日・八 1 那覇 0
				
経綫11 沖・日・八 15 那覇 12	経綫12 沖・日・八 6 那覇 5	経綫13 沖・日・八 8 那覇 6	経綫14 沖・日・八 3 那覇 1	経綫15 沖・日・八 2 那覇 2
				
経綫16 沖・日・八 35 那覇 17	経綫17 沖・日・八 3 那覇 5	経綫18 沖・日・八 1 那覇 0	経綫19 沖・日・八 1 那覇 2	経綫20 沖・日・八 1 那覇 0
				
経綫21 沖・日・八 1 那覇 0	経綫22 沖・日・八 1 那覇 0	経綫23 沖・日・八 0 那覇 5	経綫24 沖・日・八 0 那覇 1	経綫25 沖・日・八 0 那覇 2
				
経綫26 沖・日・八 0 那覇 2	経綫27 沖・日・八 0 那覇 1	経綫28 沖・日・八 0 那覇 4	経綫29 沖・日・八 0 那覇 3	経綫30 沖・日・八 0 那覇 2
				
経綫31 沖・民・八 0 那覇 1				

図2 緯綫基本単位




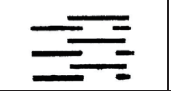











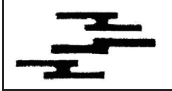
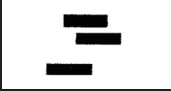


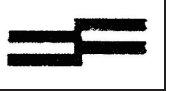





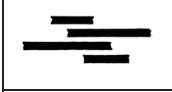
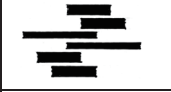

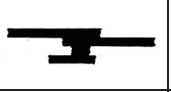
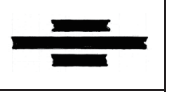


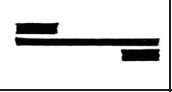
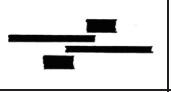
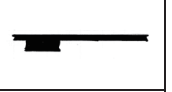
				
緯綫01 沖・日・八 6 那覇 21	緯綫02 沖・日・八 34 那覇 86	緯綫03 沖・日・八 3 那覇 2	緯綫04 沖・日・八 1 那覇 0	緯綫05 沖・日・八 6 那覇 41
				
緯綫06 沖・日・八 9 那覇 8	緯綫07 沖・日・八 3 那覇 0	緯綫08 沖・日・八 2 那覇 3	緯綫09 沖・日・八 10 那覇 18	緯綫10 沖・日・八 20 那覇 14
				
緯綫11 沖・日・八 6 那覇 15	緯綫12 沖・日・八 1 那覇 1	緯綫13 沖・日・八 3 那覇 12	緯綫14 沖・日・八 5 那覇 1	緯綫15 沖・日・八 1 那覇 10
				
緯綫16 沖・日・八 4 那覇 4	緯綫17 沖・日・八 1 那覇 2	緯綫18 沖・日・八 3 那覇 5	緯綫19 沖・日・八 3 那覇 0	緯綫20 沖・日・八 1 那覇 0
				
緯綫21 沖・日・八 1 那覇 0	緯綫22 沖・日・八 4 那覇 2	緯綫23 沖・日・八 5 那覇 0	緯綫24 沖・日・八 2 那覇 0	緯綫25 沖・日・八 0 那覇 18
				
緯綫26 沖・日・八 0 那覇 2	緯綫27 沖・日・八 0 那覇 2	緯綫28 沖・日・八 0 那覇 1	緯綫29 沖・日・八 0 那覇 1	緯綫30 沖・日・八 0 那覇 4
				
緯綫31 沖・日・八 0 那覇 3	緯綫32 沖・日・八 0 那覇 2	緯綫33 沖・日・八 0 那覇 10	緯綫34 沖・日・八 0 那覇 1	緯綫35 沖・日・八 0 那覇 1

図3 緯ずらし拵基本単位

緯ずらし拵01 沖・日・八 1 那題 3	緯ずらし拵02 沖・日・八 6 那題 3	緯ずらし拵03 沖・日・八 3 那題 2	緯ずらし拵04 沖・日・八 1 那題 0	緯ずらし拵05 沖・日・八 4 那題 12	緯ずらし拵06 沖・日・八 1 那題 1
緯ずらし拵07 沖・日・八 1 那題 0	緯ずらし拵08 沖・日・八 15 那題 1	緯ずらし拵09 沖・日・八 3 那題 3	緯ずらし拵10 沖・日・八 3 那題 5	緯ずらし拵11 沖・日・八 2 那題 0	緯ずらし拵12 沖・日・八 2 那題 11
緯ずらし拵13 沖・日・八 3 那題 0	緯ずらし拵14 沖・日・八 1 那題 1	緯ずらし拵15 沖・日・八 1 那題 0	緯ずらし拵16 沖・日・八 1 那題 0	緯ずらし拵17 沖・日・八 12 那題 22	緯ずらし拵18 沖・日・八 2 那題 3
緯ずらし拵19 沖・日・八 3 那題 1	緯ずらし拵20 沖・日・八 2 那題 0	緯ずらし拵21 沖・日・八 1 那題 0	緯ずらし拵22 沖・日・八 14 那題 4	緯ずらし拵23 沖・日・八 5 那題 2	緯ずらし拵24 沖・日・八 2 那題 0
緯ずらし拵25 沖・日・八 1 那題 2	緯ずらし拵26 沖・日・八 16 那題 26	緯ずらし拵27 沖・日・八 3 那題 0	緯ずらし拵28 沖・日・八 11 那題 23	緯ずらし拵29 沖・日・八 1 那題 0	緯ずらし拵30 沖・日・八 1 那題 0
緯ずらし拵31 沖・日・八 1 那題 16	緯ずらし拵32 沖・日・八 3 那題 0	緯ずらし拵33 沖・日・八 2 那題 8	緯ずらし拵34 沖・日・八 2 那題 0	緯ずらし拵35 沖・日・八 4 那題 0	緯ずらし拵36 沖・日・八 1 那題 0
緯ずらし拵37 沖・日・八 3 那題 6	緯ずらし拵38 沖・日・八 1 那題 0	緯ずらし拵39 沖・日・八 1 那題 0	緯ずらし拵40 沖・日・八 0 那題 1	緯ずらし拵41 沖・日・八 0 那題 1	緯ずらし拵42 沖・日・八 0 那題 2
緯ずらし拵43 沖・日・八 0 那題 4	緯ずらし拵44 沖・日・八 0 那題 1	緯ずらし拵45 沖・日・八 0 那題 1	緯ずらし拵46 沖・日・八 0 那題 7	緯ずらし拵47 沖・日・八 0 那題 1	緯ずらし拵48 沖・日・八 0 那題 3
緯ずらし拵49 沖・日・八 0 那題 2	緯ずらし拵50 沖・日・八 0 那題 3	緯ずらし拵51 沖・日・八 0 那題 1	緯ずらし拵52 沖・日・八 0 那題 1	緯ずらし拵53 沖・日・八 0 那題 1	

図4 経緯緋基本単位

経緯緋01 沖・日・八 33 那覇 87	経緯緋02 沖・日・八 2 那覇 0	経緯緋03 沖・日・八 42 那覇 39	経緯緋04 沖・日・八 5 那覇 9	経緯緋05 沖・日・八 11 那覇 20
経緯緋06 沖・日・八 1 那覇 2	経緯緋07 沖・日・八 3 那覇 5	経緯緋08 沖・日・八 21 那覇 9	経緯緋09 沖・日・八 1 那覇 0	経緯緋10 沖・日・八 1 那覇 0
経緯緋11 沖・日・八 5 那覇 0	経緯緋12 沖・日・八 2 那覇 5	経緯緋13 沖・日・八 7 那覇 14	経緯緋14 沖・日・八 1 那覇 0	経緯緋15 沖・日・八 2 那覇 18
経緯緋16 沖・日・八 2 那覇 10	経緯緋17 沖・日・八 1 那覇 2	経緯緋18 沖・日・八 9 那覇 7	経緯緋19 沖・日・八 12 那覇 21	経緯緋20 沖・日・八 2 那覇 1
経緯緋21 沖・日・八 1 那覇 0	経緯緋22 沖・日・八 6 那覇 8	経緯緋23 沖・日・八 2 那覇 4	経緯緋24 沖・日・八 2 那覇 1	経緯緋25 沖・日・八 5 那覇 1
経緯緋26 沖・日・八 3 那覇 4	経緯緋27 沖・日・八 15 那覇 7	経緯緋28 沖・日・八 3 那覇 0	経緯緋29 沖・日・八 26 那覇 9	経緯緋30 沖・日・八 3 那覇 15
経緯緋31 沖・日・八 5 那覇 6	経緯緋32 沖・日・八 5 那覇 4	経緯緋33 沖・日・八 2 那覇 3	経緯緋34 沖・日・八 1 那覇 0	経緯緋35 沖・日・八 6 那覇 4
経緯緋36 沖・日・八 0 那覇 1	経緯緋37 沖・日・八 0 那覇 3	経緯緋38 沖・日・八 0 那覇 5	経緯緋39 沖・日・八 0 那覇 1	経緯緋40 沖・日・八 0 那覇 2
経緯緋41 沖・日・八 0 那覇 2	経緯緋42 沖・日・八 0 那覇 3	経緯緋43 沖・日・八 0 那覇 2	経緯緋44 沖・日・八 0 那覇 1	経緯緋45 沖・日・八 0 那覇 1
経緯緋46 沖・日・八 0 那覇 1	経緯緋47 沖・日・八 0 那覇 1	経緯緋48 沖・日・八 0 那覇 2	経緯緋49 沖・日・八 0 那覇 1	

